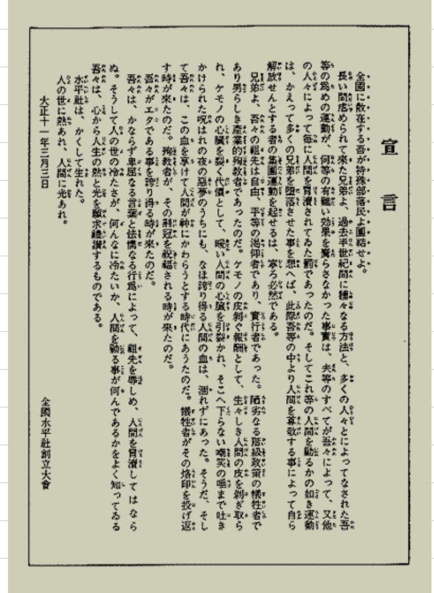
心温かい人々が暮らす町

「水平社宣言」をご存じですか?



宣言

全國に散在する吾が特殊部落民よ團結せよ。

長い間虐められて來た兄弟よ、過去半世紀間に種々なる方法と、多くの人々とによってなされた吾等の爲めの運動が、何等の有難い効果を齎らさなかった事實は、夫等のすべてが吾々によって、又他の人々によって毎に人間を冒瀆されてゐた罰であったのだ。そしてこれ等の人間を勦るかの如き運動は、かえって多くの兄弟を墮落させた事を想へば、此際吾等の中より人間を尊敬する事によって自ら解放せんとする者の集團運動を起せるは、寧ろ必然である。

兄弟よ、吾々の祖先は自由、平等の渇仰者であり、實行者であった。陋劣なる階級政策の犠牲者であり男らしき産業的殉教者であったのだ。ケモノの皮剝ぐ報酬として、生々しき人間の皮を剝ぎ取られ、ケモノの心臓を裂く代價として、暖い人間の心臓を引裂かれ、そこへ下らない嘲笑の唾まで吐きかけられた呪はれの夜の惡夢のうちにも、なほ誇り得る人間の血は、涸れずにあった。そうだ、そして吾々は、この血を享けて人間が神にかわらうとする時代にあうたのだ。犠牲者がその烙印を投げ返す時が來たのだ。殉教者が、その荊冠を祝福される時が來たのだ。

吾々がエタである事を誇り得る時が來たのだ。

吾々は、かならず卑屈なる言葉と怯懦なる行爲によって、祖先を辱しめ、人間を冒瀆してはならぬ。そうして人の世の冷たさが、何んなに冷たいか、人間を勦る事が何んであるかをよく知ってゐる吾々は、心から人生の熱と光を願求禮讃するものである。

水平社は、かくして生れた。

人の世に熱あれ、人間に光あれ。

大正十一年三月三日

全國水平社創立大會

先人たちの思いを引き継ぐために

「人の世に熱あれ人間に光あれ」

この言葉を聞いたことがある人もいるのではないでしょうか。これは水平社宣言の一節です。温かな気持ちで満ちあふれ、人間の尊厳が光り輝く社会の実現を求める、この言葉に込められた当時の人々の思いや願いから、今を生きる私たちは何を知り、何を学ぶことができるのでしょうか。

◇全国水平社の創立

1871（明治４）年、明治政府は「解放令」を発布しました。しかし、差別をなくすための施策が何ら行われなかったため、依然として厳しい差別がまん延し、差別は解消されませんでした。不当な差別に苦しめられてきた当時の人たちが願ったこと、それは差別を受けることなく、人間らしく暮らしていける社会の実現でした。

そこで部落差別に苦しむ被差別部落の人々が自ら立ち上がり、1922（大正 11）年３月３日、京都の岡崎公会堂に集まり、人間としての平等を願い、自分たちの力で差別からの解放を目指す運動を進める「全国水平社」を創立しました。

その創立大会で採択された「水平社宣言」は、差別に苦しむ当事者自身が声を上げ、社会を変えようとする日本初の「人権宣言」と言われています。

◇全国水平社の願いは、現在の世界の人々の願いとも重なっています

全国水平社の組織の基本的な原則を示す「綱領」には、「吾等は人間性の原理に覚醒し人類最高の完成に向かって突進す」と決意を述べ、部落差別の解消だけではなく、全ての人の尊厳や平等を求めています。差別に苦しむ部落の人々が自ら声を上げ、差別のない社会を作り上げようとする水平社の理念は、日本で展開されてきた人権確立を目指す運動の原点であると言われています。

人間を尊敬することによって、差別のない社会の実現を目指す全国水平社の願いと「誰一人取り残さない」という考えのもと、2030 年までに 17 の目標達成を目指す SDGs（持続可能な開発目標）の理念と重なります。

これらは、人間の尊厳と権利は平等であり、理性と良心にもとづき同胞として行動することを願う「世界人権宣言」を介して、つながっているととらえることができます。全国水平社の理念は、100 年を経過した今も、私たちの活動の拠り所として輝き、進むべき方向を示しています。

◇今私たちができること

現代社会において、一見あからさまな部落差別はなくなったように見えますが、インターネット上の差別書き込みや、同和地区所在地情報の掲載など、悪質な事例が発生しています。また、意識調査などにおいても、同和地区への忌避(きひ)意識（「差別や偏見はよくないこと」と理解していても、「差別される側になることは避けたい」という気持ち）が依然、高い数値にあります。その他にも様々な人権侵害が後を絶たない状況です。

さらに、同和問題を今さら取り上げずこのままそっとしておけば自然に解消するという「寝た子を起こすな」の考え方がありますが、多くの場合、インターネットや周囲からの誤った情報により、差別的に同和問題のことを知っていくことになり、適切ではないと言えるでしょう。全国水平社創立から、誰もが人として十分に尊重された社会になっているでしょうか。人権尊重の意識が高まっていることも確かにありますが、インターネットや SNS 上での人権侵害、性のあり方への偏見、新型コロナに関する差別など、新たな問題も起きています。全国水平社の理念は、これからも色あせることなく、私たちが継承すべき財産だと思います。差別のない社会の実現に向け、町民一人ひとりが、人権問題に向き合い、関心を寄せ、今後も努力を重ねていきましょう。

町民一人ひとりが相手を思いやり、多様な価値観を認め合う社会をめざしましょう。
「心温かい人々が暮らす、にぎやかな過疎の町」美波町であり続けるために人権について考え守っていくことが
まさに、"にぎやかそ"美波町まちづくりにつながります。このコーナーでは人権に対する思いを掲載していきます。

ウミガメ News Letter No.14

寒さとウミガメの体温調整機能

寒さが厳しくなるこの時期は、博物館のウミガメ達にとって最もシビアな季節となります。8月には28℃あった海水温も、この時期には最大で 12℃まで低下し、それが３月中旬まで続きます。屋外プールのカメ達もかなり寒そうに見えます。カメ達は代謝が落ちて、体長を崩しやすくなり、特に生後1年以内の子ガメや弱った個体は、加温した水槽に移さないと死んでしまうため、気が抜けません。

もともとカメの仲間は、外温動物で、気温が下がると冬眠してしまいます。ウミガメも本来はもう少し温かい海域に移動します。ただ、ウミガメは、少し内温動物的な要素も持っており、体の代謝熱によって、体温を周囲の海水温よりも少し高く保てることもあり、他のカメが冬眠してしまう水温でもかろうじて活動することができます。

体には、体温を保持するための構造がいくつかあり、まず、大きな体が蓄熱性に優れています。また「奇網」と呼ばれる血管構造が四肢の付け根にあり、ヒレあしに向かう温かい血液と体に戻る冷たい血液とで熱交換を行うことで、ヒレあしから体温が下がることを防いでいます。

寒さに最も強いのがオサガメで、0℃に近い海水温でも、体の中心温度を20℃前後に保てるようです。アカウミガメは、オサガメに次いで、体温保持機能には長けていると考えられ、この時期でも、近くの海にいないわけでもないのですが、水槽という限られた空間だとその能力も存分に発揮できないのでしょう。

余談ですが、逆に暑すぎるときにはどうするのか?というと、深く潜り、ヒレあしに大量に血液を送ることで体を冷やします。海水温は、水深が増すにつれて低下し、水深1000mでは2℃になっています。海では潜ることで、単純なクールダウンができ、これらは他の海洋生物でも行われているようです。

リニューアルによる水槽の改修では、このようなオーバーヒートやオーバークールの緩和も考えられています。（学芸員：田中宇輝）

うみがめについての質問をお送りください。
お答えします!
〒779-2304 徳島県海部郡美波町日和佐浦 370-4 うみがめ博物館カレッタ「質問係」
応募フォーム

Question アオウミガメの子ガメを大浜海岸から放流したらどうなるの?

Answer ここからアオウミガメの子ガメを放流しても無事に育つかわかりません。また、もし育って返ってくると、アカウミガメの生息地を圧迫してしまうことになるので、アカウミガメの保全的にはいいことではありません。

みなみの海の いきもの図鑑(ずかん)

太平洋(たいへいよう)に面する美波町では多くの生き物たちが生息(せいそく)しています。このコーナーでは実際(じっさい)に撮影(さつえい)してきたリアルな写真と共にいろんな生き物たちをご紹介(しょうかい)します!

イセエビ Japanese spiny lobster

今回は、イセエビの紹介をしたいと思います。イセエビ漁が解禁(かいきん)になると水揚(みずあ)げされた映像などがよく見られますよね。では水中ではどんなところにどんな様子でいるかというと…

実は昼間はこんな↑感じで岩の隙間(すきま)や穴などに隠れています。でも夜行性(やこうせい)なので夜になるとエサとなる貝類や甲殻類(こうかくるい)などを探して動き回ります。

美波町の海の中にはいくつか洞窟(どうくつ)があり、そこにもたくさんのイセエビが見られます。日中でも暗い洞窟(どうくつ)内に入ると活動している姿が見られます。美波町の各漁協(ぎょきょう)では、イセエビを獲(と)りすぎないように、漁をしない期間を設(もう)けるなどして漁獲量(ぎょかくりょう)を制限してイセエビの資源を守っています。（ダイバー：長楽美保）